

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 藍島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

なお、本校は複式学級のため、カリキュラム関係上「理科」の学力調査は実施しておりません。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話す・聞く能力、書く能力を問う問題はよくできている。 ・読む力、言語についての知識・理解・技能を問う問題に課題が見られ、文章のていねいな読み取りや読書活動を充実させる等の手立てが必要と考えられる。
	よくできた問題	・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す能力を問う問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・文の中における主語と熟語との関係などに注意して、文を正しく書く問題に課題がみられた。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より正答率の全国平均との差は小さくなっている。 ・読む力・書く力を問う問題に課題が見られた。ただ書くだけでなく、文章を読み内容整理したり、まとめたりして書く力を伸ばしていく必要がある。
	よくできた問題	・話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題に課題がみられた。
算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を少し下回っていた。また、無解答の問題は少なかった。基礎的な力がついてきている。
	よくできた問題	・角度の大きさの理解について問う問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・円周率の意味を問う問題に課題がみられた。
算数B	全体的な傾向や特徴など	全ての評価項目で全国平均正答率を下回っていた。無解答の問題が多くみられ、記述式の問題に課題が見られる。
	よくできた問題	・規則性を解釈し、条件に合うものを判断する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・式や言葉を使って、根拠や理由を説明する問題の正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	本校は実施していません。
	よくできた問題	本校は実施していません。
	努力が必要な問題	本校は実施していません。

#### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問項目は、ほぼすべての児童が「している」と答えている。家庭が児童の生活を温かく支えてくれていることが分かる。</p> <p>「家で、学校の宿題をしていますか」「学校のきまりを守っていますか」の質問項目についてもすべての児童が「している」と答えている。児童は善悪を判断し、そのことを守ろうとしている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問項目に対しては、すべての児童が「いけないことだ」と答えている。いじめは絶対だめだということが、子どもたちの中になじり育っている。</p> <p>本校の児童は、家庭の協力もあり、生活のリズムが安定している。また、規範意識や学習規律も高い。</p> <p>「算数・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問に対しては全ての児童が肯定的な回答をいいて、学校の宿題は児童全員実に取り組んでいるが、「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。」の質問項目に対しての肯定的な意見はあまり多くない。児童たちは、何事にも真面目に取り組むため、家庭での自主学習の取り組みを進めていくことによって、自主性や内容を高めていく。</p> <p>読書時間に関する質問をみると読書時間が多くはない。また、「新聞を読んでいますか。」の質問項目ではほとんどの児童が読んでいないと回答している。今後、文章を読む機会を確保し、読書の質と時間の向上を図っていかなければならない。</p>

#### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための特設時間の実施
  - ・朝自習(10分間)で「藍島スペシャルタイム」を週3回全校一斉に実施する。(曜日で内容を決め、国語科・算数科・読書を行う)
- 学力定着サポートシステムの活用
  - ・学力定着サポートシステムの問題やWEB問題、使い基礎基本の定着を図る。
  - ・個人ファイルを作り、綴じていき、学習を振り返ることができるようにする。
- 「書く」ことを習慣化
  - ・ノート指導を継続して行う。児童により手本を提示する。
  - ・授業の中で、自分の考えを説明するために書くことを位置づけ、発表させることで表現力をつけていく。
- 「読む力」をつける。
  - ・新聞記事の切り抜きをつかった問題を週1回解くことで、初めて出会う文章を読み解いていく読解力をつける。
  - ・毎朝の朝の会で、詩や古典の音読に取り組み暗唱するようにする。(4年生以上)
- 授業の最後で「振り返り」の時間を確保し、「振り返り」の仕方を工夫していくことで、その日学習したことが身につくようにする。

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の取組
  - ・自主学習ノートの活用。(4年生以上)  
(家庭学習の時間の中で、自主学習ノートに、必要と思われる内容を自分で考えて取り組むようにする)
  - ・週1回家庭で新聞記事を読み、感想を書く。(4年生以上)
  - ・家庭学習時間の設定。  
(学年×10分をもとに、一人一人が自分にあつた学習時間を決めるようにする)
  - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、高学年は自分で工夫して家庭学習に取り組むようにする。
  - ・家庭学習の時間の中で読書を積極的に取り入れるようにする。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取り組み等を保護者へ周知。
  - ・学校便りや学校HPでお知らせし、家庭と連携し協力体制を整える。
- 基本的な生活習慣を身につける
  - ・毎朝の健康観察のときに、前日に就寝した時間を担任に伝えるようにする。